

2026年10月22日

DENSO KOBELCO SARD GR Supra 第7戦オートポリス、最後尾から執念の7位フィニッシュ

SUPER GT 第7戦オートポリスレポート

2026 SUPER GT 第7戦「AUTOPOLIS GT 3Hours RACE」(10/17-18)

オートポリス(1周4.674km)

入場者数：予選12,000名、決勝18,000名 合計30,000名

10月18日（日）SUPER GT 第7戦「AUTOPOLIS GT 3Hours RACE」の決勝が行われ、最後尾から関口が驚異のマクリで、ダブルスティントを敢行。SCでの挽回劇もあって1回目のピットを全車終えたところで4位走行の快挙の走り。だが2度目のSCでギャップを失い、サッシャに託した3スティント目（57周目）で全車2回目のピットを終えたところで7位。ここから周りとの一進一退の攻防となり、レース終盤にはランキングトップの36号車と好バトルを見せ、最後は見事に抑えきって執念の7位フィニッシュ。ドライバーポイントは4点（計36点）を獲得し、チームポイントは7点（計36点）を獲得し共にランキング5位に。いよいよファイナルとなる第3/8戦は、11月7日（土）・8日（日）にモビリティリゾートもてぎにて250kmレースのダブルヘッダーとして開催される。

■事前情報

2026年シーズンも最終章の九州ラウンドとなる第7戦「AUTOPOLIS GT 3Hours RACE」。前戦第6戦SUGOでは決勝で獅子奮迅の追い上げを見せ2位フィニッシュとなり、現在ランキング5位につけているDENSO KOBELCO SARD GR Supra。10月17日（土）午前に公式練習、午後にノックアウト方式（Q1、Q2）の公式予選、18日（日）決勝は13時10分スタート。レースは、3時間の時間制で争われ、給油を伴うピットストップは2回、何も無ければ約106-7周は周回すると見込まれる（昨年はFCY/SCがあり102周）。1人のドライバーの最大運転時間は2時間まで。サクセスウェイトは現獲得ドライバーポイントの倍となる64kg（燃リス1ランクダウン、実ウェイト50kg搭載）。このサクセスウェイトによるオートポリスでのタイムの落ち込みは約1秒と大きく、タイヤの持ち込みセット数はドライ6/ウェット8セット（うち1セットはヘビーウェット対応用）で、決勝スタートまで使えるドライのマーキングタイヤはそのうち6セットとなる。



オートポリスは阿蘇外輪山の北方に位置し、標高900m、高低差52mのマウンテンコース。前半ダイナミック、後半テクニカルでチャレンジングな全長4.6kmのレイアウト。オーバーテイクポイントは限られ、セクター3では遅い車両に詰まるとタイムロスしやすく、タイヤにも厳しいタフなコース。今年もスポットチームパートナーとしてフロント中央にトヨタカローラ大分さまのロゴ、左右リアフェンダーにGR Garage大分中央さまのロゴを貼付。株式会社神戸製鋼所さま、株式会社和光ケミカルさまも観戦ツアーを組み、多数の心強い応援者が総勢240名以上も大挙して訪れる第7戦オートポリス。現在ランキングトップとのドライバーポイント差は26点。変わりやすい天候を味方につけ、高度な戦略とチーム総合力を駆使し、フルポイントを狙って伸るか反るかの一番の勝負どころ。脇阪寿一監督のもとチーム一丸となって全力で駆け抜け、一意専心に勝利を目指していった。

■公式練習走行

17日（土）10時20分から熊本地震で犠牲になられた方々を悼み黙とうを捧げ、10時30分から公式練習走行が開始。気温21度/路面温度23度のドライコンディションの中、最初の60分間の混走セッションではサッシャが、ターン8～ターン9の路面舗装の補修の影響があるのか見極めながら、ソフト側とミディアム系ドライタイヤをベディング。3周目からミディアム系タイヤを装着し赤旗中断を挟んで11周ほど走行。10周目に1分36秒114の7番手タイムを記録した。その後、12周目からは関口がステアリングを握り、FCYテストを2回実施を含みチェッカーまでロングランの確認走行。混走セッションはトータル27周を走り込み、サッシャが10周目にマークした1分36秒114のタイムで10番手となった。



11時55分から始まった10分間のGT500単独セッションでは、気温23度/路面温度28度に。関口がソフト側のドライタイヤを装着して予選のアタックシミュレーションを実施。入念にタイヤを温めた3周目残り1分半を経過したところで、第2ヘアピンでコースオフ車両があり、赤旗でそのまま終了となってしまった。結果、GT500単独セッションではアタックできずに午後の予選に向けデータを得られず。公式練習走行は、トータル30周を走行してサッシャが混走セッションでマークしたタイムで11番手となった。

■公式予選

■Q1：関口が好感触の仕上がりもタイムが伸びずに14番手

17日（土）15時3分から開始されたQ1は気温23度/路面温度30度の晴れ。関口はミディアム系のドライタイヤを装着し、残り7分ほどでコースイン。午前中の公式練習走行GT500単独セッションが赤旗でデータが得られていない中で午後の予選にセット調整した中、アタックラップを4周目と決め、しっかりとタイヤを温めるウォームアップを速めのラップタイムで3周実施。予定通り4周目にアタックに入るとセクター1を好タイムで駆け抜けた関口。続くセクター2も混走セッションのタイムから大きく削って駆け抜けた。続くセクターも限界まで攻める関口であったが、ここでオーバーステア傾向で他車に大きく水を空けられてしまう。コントロールラインを最後の方に通過、チェッカーを受けた関口は1分34秒315の14番手タイム。クルマから降りた関口はフィーリングは悪くはないのだが、タイムに結びつかずと困惑した表情に。明日の決勝に向けては公式練習走行でのロングラン評価を元に一層のレースペースの改善を求めてデータを分析して備えることとなった。



■決勝

■ウォームアップ走行

18日（日）11時40分から開始された20分間のウォームアップ走行は、気温23度/路面温度31度の晴れ。まず関口が決勝向けタイヤの準備をした後にミディアム系タイヤを装着しての確認走行。続いてサッシャが7周目からドライブ。10周目に赤旗終了まで走行。ウォームアップはトータル10周を走行して、サッシャが5周目にマークした1分40秒093で12番手となった。

■決勝レース

第1スティント／第2スティント：関口が驚異のマクリでダブルスティント敢行

18日（日）13時10分決勝スタート時点は気温25度/路面温度33度の晴れ。最後尾からスタート担当の関口が驚異のマクリを見せて、オープニングラップで2台を抜きさると前に追従。1回目のピットストップを早めにアンダーカットを狙って22周を終えてピットに滑り込む。関口のダブルスティントを敢行し、素早いピットワークで戦列に復帰すると23周目にFCYからのSC導入へ。4台だけが1回目ピットを終えており、ここで運を味方につけた挽回劇もあって1回目のピットを全車終えたところで4位走行の快挙となった。だがその後、ペースの速い後続車両に猛追を受け、更に50周目に2度目のSC導入で、得られたマージンを一気に失う今度は不運。1回目ピットでアンダーカットのため、2回目ピットでの給油時間が必然的に長くなるため、非常に各車が接近したこの状況では、一転してピットイン後に順位を失うことが予想される不利な展開となった。ここからの後半の戦略とスピードが順位を決定するシチュエーション。SC解除された次週の56周を終えてピットインし、タイヤもデグラデーションが進んで限界に近く、ロスを最少限に抑える戦略を取らざるを得なくなった。



第2スティント：サッシャがランキングトップを抑えきり7位を堅守

サッシャに託した57周目からの3スティント目で、全車2回目のピットを終えたところでペナルティ車両もあって7位を走行。ここから非常にギャップのない接近した周りとの一進一退の攻防となる。レース終盤にはペナルティを受け順位を落としていたランキングトップの36号車が背後に迫る。サッシャはスーパーフォーミュラではチームメイトの坪井と、クリーンな好バトルを展開した。幾度もドアをこじ開けようとする仕掛けてくる坪井を巧にかわし、最後まで見事に抑えきって執念の7位フィニッシュを果たしてみせた。



ドライバーポイントは4点（計36点）を獲得し、チームポイントは7点（計36点）を獲得し共にランキング5位キープ。いよいよファイナルとなる第3/8戦は、11月7日（土）・8日（日）にモビリティリゾートもてぎにて250kmレースのダブルヘッダーとして開催される。

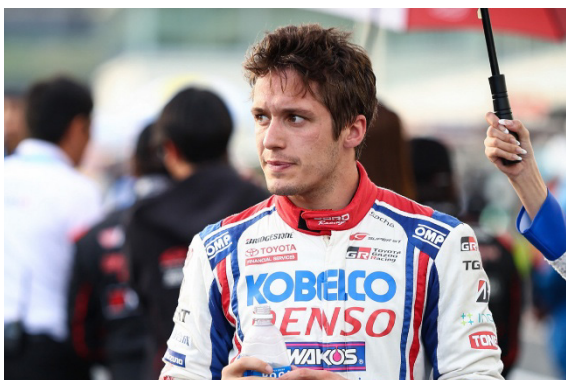


■ 関口 雄飛



「予選は厳しい結果でしたが、巻き返せると信じて臨んだ決勝。スタートしてスティント序盤から攻めていけました。SCもあって順位を大きく上げてダブルスティントで更に表彰台を目指していましたが、2スティント目の後半は少しペースがあがらずで、2回目のSCで振り出しに戻ってしまいました。結果は7位でしたが、ランキング5位をキープできて、最後のもてぎ2レースにつなげられたことは良かったです。もてぎでは最後まで諦めずにプッシュして行きたいと思います。引き続き、ご声援よろしくお願いいたします」

■ サッシャ・フェネストラズ



「厳しい予選順位であったけど、決勝では、ユウヒさんが順位を大きく挽回してくれて、あの時はとてもエキサイティングだった。自分が走る直前の2回目のSCは不運だった。幸運と不運が入り乱れた予想がつかない展開だったね。最後はショウ（坪井翔）とのバトルを楽しんだけど、タフなレースだった。最後尾からのスタートで7位フィニッシュしてポイントも取れたから、全体として見れば上出来だった。次の最終戦は2レースあるし、まだまだタイトルを諦めていない。次もガンバリマス！」

■ 監督 脇阪 寿一



「オートポリスでは沢山のファンの皆さん、沢山のゲストの皆様、沢山のスポンサーの皆様にご来場頂き誠にありがとうございました。最後尾からのスタートとなりましたが、チーム一丸となり諦めずに戦った結果、7位でフィニッシュし、ランキング5位をキープ出来ました。戦略的にも、最後尾からいかに追い上げるかを考え、移り行く展開の中、様々なシチュエーションに対応する事が出来たと思っています。チームの雰囲気も引き続き良いので残り2レース、笑顔でシーズンを終わられる様に精一杯がんばり頂点めざします。引き続き、熱い応援をどうぞよろしくお願いします！」

Qualifying Result

Pos.	No.	Car	Driver	Best Time	SW
1	64	Modulo HRC PRELUDE-GT	大草 りき/I.オオムラ・フラガ	* 1'32.414	2
2	17	Astemo HRC PRELUDE-GT	塚越 広大/野村 勇斗	* 1'32.799	90
3	19	WedsSport BANDO GR Supra	国本 雄資/阪口 晴南	* 1'32.885	14
14	39	DENSO KOBELCO SARD GR Supra	関口 雄飛/S.フェネストラズ	1'34.315	64

天候：晴れ、コース：ドライ、Timeの*はQ2ベスト

Race Result

Pos.	No.	Car	Driver	Time/Diff	Laps
1	100	STANLEY HRC PRELUDE-GT	山本 尚貴/牧野 任祐	3:01'37.269	98
2	38	KeePer CERUMO GR Supra	大湯 都史樹/小林 利徠斗	+1.363	98
3	23	MOTUL Niterra Z	千代 勝正/高星 明誠	+7.972	98
7	39	DENSO KOBELCO SARD GR Supra	関口 雄飛/S.フェネストラズ	+36.404	98

天候：晴れ、コース：ドライ、3Hours (Start Time: 13:16'33 Finish Time: 16:18'10) 4.674km×98Laps

Drivers Ranking

Pos.	No.	Driver	Total
1	36	坪井/山下	61
2	100	山本/牧野	58
3	17	塚越/野村	45
5	39	関口/S.フェネストラズ	36

Point standings after Rd.7

Team Ranking

Pos.	No.	Team	Total
1	36	TGR TEAM au TOM'S	79
2	100	STANLEY TEAM KUNIMITSU	76
3	17	Astemo REAL RACING	58
5	39	TGR TEAM SARD	51

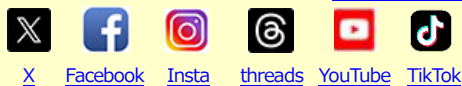
Point standings after Rd.7

Partners



情報参照先

●サード公式サイト : <https://www.sard.co.jp>



●SUPER GT : <https://supergt.net/jp>



■本リリースに関するお問い合わせ先：チーム広報担当：宮本 e-mail: media@sard.co.jp

SARD

株式会社 サード

〒473-0914 愛知県豊田市若林東町上外根50

TEL. 0565-53-1166 FAX. 0565-52-5482

www.sard.co.jp